



橘学苑グランドデザイン 2025

- 挨拶（理事長・学苑長・園長）
- 沿革
- 土光登美年譜 土光敏夫年譜
- 橘学苑の教育
- 中学校・高等学校の改革
- 幼稚園の改革
- 基盤の改革
- 財務シミュレーション
- 橘学苑の歌

—— テーマ ——

学ぶよろこび 教えるよろこび

理事長挨拶

民主主義における健全な社会は、賢明な国民の力によって作られます。橘学苑はそれを実現するために、一人でも多くの人に正しい教育を施すことを目指して土光登美校主によつて創立されました。この思いを受け継ぎながらも、様々な事象が多様化する状況に適切に対応するために、本学苑では2025年度を開始年度として2032年度までの中期計画「橘学苑グランドデザイン2025」を設定し、学苑改革に取り組むことと致しました。教育の見直しはもとより、従事する教職員の働き方改革・働きがい改革にも取り組み、良質な教育環境の整備と成果の実現に取り組んでまいります。



理事長 池上 幸保

学苑長挨拶

本校は創立以来、「人間教育」を基本に教育を展開しております。近年急速なAIの発達により、学力検査などで測定できる認知能力に加え、学力検査では測定できない、やる気、忍耐力、協調性、自制心など人の心や社会性にかかる非認知能力が求められるようになってきております。これは正に本校が創立以来基本にしてきたところです。

今後、学力向上と共に、探究を中心に社会性を養う教育を展開して行きたいと考えておりますので、本校のこれからに期待して頂ければと思います。



学苑長 外西 俊一郎
(兼務:副理事長、中学校・高等学校校長)

園長挨拶

幼稚園は、橘学苑の中に附属幼稚園として誕生し半世紀を迎えます。創立の精神を土台に据えて、生涯における人格形成の基礎を培う保育を行なつてまいりました。そして、『自立・共生・創造』の3つの力を園生活の中で育てています。近年では、子ども子育て支援新制度により保育料の無償化・長時間預かり保育・満3歳児の受け入れを導入しました。今後、園児受け入れの層を広げ保育の質を高めて、時代に沿った幼稚園のあり方を進めてまいります。



幼稚園 園長 三上 正芳

沿革

社会	本学苑
1941 太平洋戦争勃発 真珠湾攻撃	
1942 翼賛選挙 関門鉄道トンネル	1942 橘女学校創立 校主土光登美 校舎落成
1945 終戦の玉音放送 ベルリン陥落 ポツダム会談	1945 財団法人橘学苑設立 土光登美理事長 土光登美急逝 土光敏夫理事長就任
1946 昭和天皇の「地方巡幸」はじまる 新円切り替え	1946 橘高等女学校へ組織変更 第一期生卒業
1947 学校給食はじまる 6・3・3制、男女共学はじまる	1947 私立橘中学校併設 橘女子高等学校へ昇格
1951 サンフランシスコ講和条約署名	1951 学校法人橘学苑へ組織変更
1957 スポートニク1号打ち上げ	1957 体育館完成
1960 岸内閣「新安保条約」調印	1960 学苑歌完成
1961 東洋の魔女 ソ連が人類初の有人宇宙飛行に成功	1961 土光登美訓詞碑 「正しきものは強くあれ」建立
1965 日韓基本条約調印	1965 鉄筋3階建本館完成（現1号館）
1968 メキシコ五輪 東名高速道路開通	1968 定時制高等学校併設 鉄筋3階建新館完成
1974 佐藤元首相「ノーベル平和賞」受賞	1974 附属幼稚園併設
1979 大学共通一次試験開始	1979 定時制高等学校休校
1981 第2次臨時行政調査会発足 土光敏夫会長	1981 生活の時間（4単位）実施
1987 国鉄分割民営化でJRに	1986 総合の時間（6単位）実施
1992 PKO協力法成立、自衛隊派遣	1987 音楽堂完成 創作館完成
2003 米スペースシャトル空中分解事故	1992 創立50周年
2004 アテネ五輪 新潟県中越地震 イチロー大リーグ最多安打記録	2003 SAKURA DOME完成
2006 ブログ普及	2004 地上5階地下1階建2号館完成 橘学苑中学校・高等学校へ改称 中学男女共学・高校コース制導入
2017 天皇陛下「生前退位」正式決定	2006 全面男女共学化
2018 平昌五輪	2017 創立75周年記念式典
	2018 1号館リニューアル



土光登美 年譜

1871		岡山県御津郡 伏見義三郎・ 幾濃の次女として誕生
1882	10 歳	小学校卒業
1885	13 歳	裁縫学校卒業
1889	18 歳	土光菊次郎と結婚
1895	23 歳	長男英太誕生(1 年で死亡)
1896	25 歳	次男敏夫誕生
1899	27 歳	三男義三郎誕生
1901	30 歳	長女満寿子誕生
1905	33 歳	次女節子誕生
1911	39 歳	三女美子誕生
1925	54 歳	東京市赤坂区青山に転居
1929	57 歳	立正婦人会常任幹事
1932	60 歳	まこと会会长
1939	67 歳	金婚式
1940	69 歳	菊次郎逝去(享年 69 歳)
1941	69 歳	横浜市鶴見区北寺尾に転居
1942	70 歳	橘女学校創立 校主 土光登美
1945	73 歳	逝去



土光敏夫 年譜

1896		岡山県御津郡 土光菊次郎・ 登美の次男として誕生
1920	23 歳	東京高等工業学校卒業 東京石川島造船所に就職
1925	29 歳	長男陽一郎誕生
1927	31 歳	長女禮子誕生
1931	35 歳	次女紀子誕生
1934	37 歳	次男哲夫誕生
1938	42 歳	三女立子誕生
1945	48 歳	財団法人橘学苑第 2 代理事長
1946	49 歳	石川島芝浦タービン社長
1948	51 歳	私立橘中学校・橘女子高等学校第四代校長(S33 まで)
1950	53 歳	石川島重工業社長
1960	63 歳	石川島播磨重工業(IHI)初代 社長
1964	68 歳	石川島播磨重工業(IHI)会長
1965	68 歳	東芝社長
1972	75 歳	東芝会長
1974	78 歳	第 4 代経団連会長
1981	84 歳	第 2 次臨時行政調査会会长
1983	86 歳	第 1 次臨時行政改革推進審議 会会长
1986	89 歳	勲一等旭日桐花大綬章受章
1988	91 歳	逝去

橘学苑の教育

正しきものは強くあれ

校主土光登美は、「國滅びるのは惡によらずして、その愚による」と、戦争という時代の中で日本の将来に思いを馳せました。そして、平和で新しい社会を創るためにには、目先のこととてらわれずにしっかりとした信念をもち、正しい考え方をする女性を育てなければならぬ、さもなくば日本の将来は危ういとの考えのもと、周囲の反対や幾多の困難を乗り越え、わが身を厭うことなく、法華経の教えを柱として学苑を創立しました。

【創立の精神】

- 一 心すなおに真実を求めよう
- 一 生命の貴さを自覚し、明日の社会を築くよろこびを人々とともにしよう
- 一 正しく強く生きよう

本校の教育の原点はその創立の精神にあり、"社会が発展し複雑化していく中で、人間がしっかりと社會をつくっていかなければ、人間が社會の犠牲になってしまう。人間は學問知識を身につけ、人間性を高めていかなければいけない"という思いは現在も受け継がれ、豊かな人間性の育成にしっかりと反映されています。

本校の教育の基本的な考え方（家庭教育と学校教育）

本校では、子どもの成長には保護者と教職員が協力して責任をもつことが重要であると考えています。そのためには、家庭と学校の役割を明確にすることが大切です。

家庭では、子どもの行動や礼儀作法、規律をしっかりと教えていただくことが求められます。この「躾」には、社会生活において他者と円滑なコミュニケーションを図るためのスキルや自己管理能力が含まれます。

一方、学校は基礎学力や教養を身につけ、他者との協働を通じて人格形成の土台を築く場です。特に本校では、すべての教育活動において、「生きる力」と「学ぶ喜び」を育むことに重きを置いています。

橘学苑は、家庭と学校が信頼し合い、お互いの役割を果たしつつ連携することで、子どもたちの成長をより一層効果的に支援できると信じています。

中学校・高等学校の改革 教育目標：自立 共生 創造

テーマ	1-1 高校入試改革
内容	受験生のレベルアップをはかりつつ、安定的に定員確保をめざす
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ホームページのリニューアルおよびSNSの活用 ○ 公立中学校・塾・地域との関係づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆ 計画的に訪問し、本校の教育の成果を周知する。

テーマ	1-2 高校教育改革
内容	多様な進路実現のできる進学校をめざす
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自律的な人間の育成 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 原点回帰。創立の精神に立ち返り、その理念を教育課程に具現化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5つの柱（人間教育、教科教育、探究教育、国際理解教育、キャリア教育） ・ 高等教育や社会で対応できる「確かな学力」と「生きる力」を育む。 ○ 魅力ある学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業改革（主体的・対話的で深い学びの追求、魅力ある授業づくりの追求） ◆ 生徒の自治活動の強化（行事・楽しめる活動等） ○ 論理力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒がすべての教育活動において、物事の因果関係を整理し、順序立てて考えることで、「書く力」と「話す力」を身につけるようにする。 ○ 英検対策 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 英検指導を強化し、生徒全員が英検準2級以上を取得できるようにする。

テーマ	1-3 受験学力だけではない学びの展開
内容	探究活動の充実
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な探究の時間の発展 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 探究学習から探究活動へ ～問い合わせから始まる主体的な学び～ ○ 土曜ゼミナール、土曜教養ゼミナール、課外活動、部活動、1年留学等 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 探究学習を通じて、生徒が主体的にそれぞれの活動に参加するようとする。 ※特に、土曜ゼミナールや土曜教養ゼミナールは、生徒が本物に触れることで、幅広い教養や見識を広め、モチベーションを高め、自分の進路について深く考える機会となるようになる。

テーマ	1-4 進路改革
内容	進学率・進学実績をあげる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5年以内に GMARCH 25%以上、日東駒専 30%以上の合格者数を実現する。 ○ 総合型選抜を活用しつつ、一般選抜でも合格できる「学力」を身につけられるようにする。 ○ 新たな高大連携校の設置および指定校の獲得

テーマ	1-5 中学校募集再開
内容	令和 10 年度（2028 年度）に再開する
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育方針の確定 ○ 教育課程およびカリキュラムの確定 ○ 施設と設備の充実 ○ 広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 評判と信頼の構築 ◆ ブランド力を高める

幼稚園の改革

教育目標：人格形成の基礎を培う

テーマ	2-1 「子どもが、子どもらしくある」環境の構築
内容	保育の質を高め、時代に沿った保育の検討と実践
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度より満3歳児の導入により3学年制から4学年制へ <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今後を見据えて、満3歳児1~2クラス ◆ 特色である3歳児~5歳児までの縦割り5~6クラス ◆ 乳幼児の発達と成長を踏まえ生活力を向上させる保育内容の取り組み ○ 横浜市型預かり保育の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ◆ 通常保育5時間の園児と預かり保育11時間の時間差を考えた保育内容の検討と実践 ○ 幼稚園の開放事業「土曜日幼稚園」 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 国の政策による子育て支援策対応 幼稚園6日制への準備として ◆ 保護者と園児が集まるところから子どもと触れ合う時間を増やし、子ども理解・家庭と幼稚園のパートナーシップの向上に繋げる。

テーマ	2-2 幼稚園事業内容の安定を目指す
内容	新制度による新しい保育事業に対応し、園児の利用定員数を一定数に保つ。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育料の無償化に伴い給付率と現状に合った利用定員数の見極め <ul style="list-style-type: none"> ◆ 園児数150名~175名 <ul style="list-style-type: none"> ・ 満3歳児クラス1~2クラス 1クラス18名定員数 ・ 3歳児~5歳児までの縦割り混合クラス5~6クラス ・ 目標：満3歳児募集人数18名 3歳児募集入園数35名 ◆ 園児数135名~150名 <ul style="list-style-type: none"> ・ 満3歳児クラス1~2クラス 1クラス18名定員数 ・ 3歳児~5歳児までの縦割り混合クラス5~6クラス ・ 目標：満3歳児募集人数18名 3歳児募集入園数25名

テーマ	2-3　満3歳児クラスから2歳児クラスへの移行
内容	令和8年度から、橋幼稚園2歳児の受け入れの申請が受理されたことによる（横浜市型）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4学年制へのプログラム再編成 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 2歳児保育カリキュラム作成 ◆ 2歳児教室の改修工事 ◆ PR活動の強化・広く地域に2歳児からの受け入れを周知する。 ◆ 4学年制により保護者の在園期間も長くなるところから、園児の発達と成長を育むと同様に乳幼児の「親業」プログラムの作成。

基盤の改革 経営目標：安定した健全経営を目指す

テーマ	3-1 財務の健全化
内容	収支均衡を実現するために、適正な生徒・園児数を確保するとともに、計画的な学費の値上げによる財源の確保と適正な人件費と経費節減に努める。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収支の均衡 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 高校及び幼稚園の募集人数を確実に確保するとともに、生徒・園児数に対し適正な教員数を配置する。 ○ 遊休地の活用

テーマ	3-2 働き方改革と働きがい改革
内容	教職員の安全と健康を優先し、過密労働を解消するべく、働き方改革を推進する。 納得のいく考課システムを導入し、仕事の達成感を感じられるようにする。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時に帰宅する職場 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教職員の意識改革を推進させ、定時に業務を終了。 ◆ 教職員の業務を明確化し、専門性が発揮できる体制を確立。 ○ ワークライフバランスの実現 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ストレスチェックの結果を分析し、教職員の心身のリフレッシュを図り、より高品質な教育を提供する。 ○ 人事考課制度の導入 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 定性的、定量的評価制度の確立。

テーマ	3-3 土光敏夫先生生誕 130 年記念事業
内容	令和 8 年 9 月 15 日に土光敏夫先生生誕 130 年を迎えます。土光敏夫先生は、本学苑の創立者土光登美先生の遺志を継ぎ、第二代理事長、第四代校長に就任し、学苑の発展に尽力され、今日の学苑の礎を築かれました。先生の目ざされた教育を継承・発展させることを目的として次の三つの事業に取り組みます。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土光敏夫先生メモリアル事業 ○ 安心安全なキャンパス整備事業 ○ 募金事業

橘学苑の歌

常見幸子 作詞

郷 伍郎 作曲

1 真澄の空の 富士の嶺
松吹く風に 霧はれて
かおりめでたき 橘の
丘に集える わが友よ
聖の法に 導かれ
平和の精神 培わん
平和の精神 培わん

2 白百合匂う 獅子ヶ谷に
湛えて深き 二つ池
かおりゆかしき 橘の
丘に集える わが友よ
我らの願い 高らかに
正しく強く 生きゆかん
正しく強く 生きゆかん

3 心に抱く 銀河系
久遠の星の 輝きに
かおり気高き 橘の
丘に集える わが友よ
真理の光り 求めつつ
いざ諸共に 学ばなん
いざ諸共に 学ばなん

学校法人橘学苑

橘学苑中学校 橘学苑高等学校 橘幼稚園

〒230-0073 神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷 1-10-35

TEL 045(581)0063 FAX 045(584)8643 URL <https://www.tachibana.ac.jp>